

4

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-216372

(P2002-216372A)

(43) 公開日 平成14年8月2日 (2002.8.2)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	キーワード (参考)
G 1 1 B	7/09	G 1 1 B	7/09 C 5 D 1 1 8
	7/13		7/13 5 D 1 1 9
	7/135		7/135 Z
			A

審査請求 未請求 請求項の数11 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願2001-14428(P2001-14428)

(22) 出願日 平成13年1月23日 (2001.1.23)

(71) 出願人 000005018

バイオニア株式会社

東京都目黒区目黒1丁目4番1号

(72) 発明者 小笠原 昌和

埼玉県越ヶ島市富士見6丁目1番1号

バイオニア株式会社総合研究所内

(72) 発明者 荒木 良則

埼玉県越ヶ島市富士見6丁目1番1号

バイオニア株式会社総合研究所内

(74) 代理人 100079119

弁理士 藤村 元彦

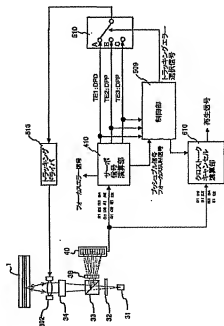
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 光ピックアップ装置

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 光ディスク構造が異なる多種類の光ディスクを記録再生する場合にDPP法によりトラッキングエラー信号を得ることができ、かつ、どの光ディスクを再生する場合でもCTC法を用いることができる光ピックアップ装置を提供する。

【解決手段】 照射光学系、光検出光学系、及び、サーボ信号演算部410を有する光ピックアップ装置であって、照射光学系の光ビームの光路中に配置され、光ビームから0次回折光、±1次回折光及び±2次回折光を生成し、0次回折光のスポットが形成されたトラックの両側に隣接するトラックに±2次回折光のスポットをそれぞれ形成し、±1次回折光のスポットを0次回折光及び±2次回折光のスポットの中心にそれぞれ形成すべく配向されたグレーティング32素子を備え、光検出器40は、0次回折光、±1次回折光及び±2次回折光のスポットからの戻り光をそれぞれ受光する独立した受光素子を備える。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 光学式記録媒体の記録面上のトラックに光ビームを集光してスポットを形成する照射光学系、及び、前記スポットから反射されて戻った戻り光を光検出器へ導く光検出光学系、前記光検出器の出力に基づいて生成されたエラー信号によって駆動される光ピックアップ装置であって、

前記照射光学系の前記光ビームの光路中に配置され、前記光ビームから0次回折光、±1次回折光及び±2次回折光を生成し、0次回折光のスポットが形成されたトラックの側面に隣接するトラックに±2次回折光のスポットをそれぞれ形成し、±1次回折光のスポットを0次回折光及び±2次回折光のスポットの中心にそれぞれ形成すべく配向されたグレーティング素子を備え、

前記光検出器は、前記0次回折光、±1次回折光及び±2次回折光のスポットからの戻り光をそれぞれ受光する独立した0次回折光用、±1次回折光用及び±2次回折光用の受光素子を備えることを特徴とする光ピックアップ装置。

【請求項2】 前記0次回折光用の受光素子は、直交する2本の分割線を境界線として各々近接配置されかつ互いに独立した4個の受光部からなり、一方の分割線がトラック伸長方向に平行になるように配置されていることを特徴とする請求項1記載の光ピックアップ装置。

【請求項3】 前記±1次回折光用及び±2次回折光用の受光素子の各々は、トラック伸長方向と略平行に伸長する分割線を境界線として各々近接配置されかつ互いに独立した少なくとも2個の受光部から構成されていることを特徴とする請求項1又は2記載の光ピックアップ装置。

【請求項4】 前記0次回折光用の受光素子に接続されかつその出力信号に基づいて第1トラックエラー信号を生成する第1トラックエラー信号演算回路と、前記0次回折光用及び±1次回折光用の受光素子に接続されかつそれらの出力信号に基づいて第2トラックエラー信号を生成する第2トラックエラー信号演算回路と、前記0次回折光用及び±2次回折光用の受光素子に接続されかつそれらの出力信号に基づいて第3トラックエラー信号を生成する第3トラックエラー信号演算回路と、を備えたことを特徴とする請求項1～3のいずれか1記載の光ピックアップ装置。

【請求項5】 前記光学式記録媒体が互いに異なる構造を有しかつ情報記録信号のトラックピッチが略同一である複数の異なる光学式記録媒体の1つである場合における前記光学式記録媒体の構造を検出する種類検出手段と、前記種類検出手段からの信号に応じて前記第1、第2及び第3トラックエラー信号を切り替える選択手段とを有することを特徴とする請求項1～4のいずれか1記載の光ピックアップ装置。

【請求項6】 前記光学式記録媒体が再生専用媒体である場合に、前記0次回折光用の受光素子の信号に基づいてトラックエラー信号を得ることを特徴とする請求項5記載の光ピックアップ装置。

【請求項7】 前記光学式記録媒体がグループ記録構造を有する場合に、前記±1次回折光用の受光素子の信号に基づいてトラックエラー信号を得ることを特徴とする請求項5記載の光ピックアップ装置。

【請求項8】 前記光学式記録媒体がランド/グループ記録構造を有する場合に、前記±2次回折光用の受光素子の信号に基づいてトラックエラー信号を得ることを特徴とする請求項5記載の光ピックアップ装置。

【請求項9】 前記0次回折光用及び±2次回折光用の受光素子に接続されかつ、前記±2次回折光用の受光素子の出力信号に基づいて、前記0次回折光用の受光素子の出力信号に含まれる隣接トラックからの信号のクロストーク量を減少せしめるクロストークキャンセル演算回路を備えたことを特徴とする請求項1～8のいずれか1記載の光ピックアップ装置。

【請求項10】 少なくとも前記0次回折光のスポットからの戻り光に非点収差を付与する光学素子を備えることを特徴とする請求項1～9のいずれか1記載の光ピックアップ装置。

【請求項11】 前記非点収差を付与する光学素子はシリンドリカルレンズであり、その中心軸が光ディスクのトラック伸長方向に対して45度の角度で伸長するように、戻り光の光路に配置されていることを特徴とする請求項1～10のいずれか1記載の光ピックアップ装置。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、光ディスクなどの光学式記録媒体に光ビームを照射して情報を記録又は再生する記録再生装置における光ピックアップに関する。

## 【0002】

【従来の技術】近年、DVD (Digital Versatile Disc) と称される高記録密度及び大容量の情報記録媒体並びにこれを用いた記録再生システムが広く知られている。DVDでは、DVD-ROM、DVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rなどが存在する。これらは同一ファミリーでありながらもまったく違う光ディスク構造をもっている。例えば、図1に示すように、DVD-ROMのROM光ディスク構造では、記録面に凹凸からなるエンボスビット列が記録情報として形成されている。図2に示すように、DVD-RW、DVD-Rなどは色素又は相変化材料の記録面にグループを設けその上に反射率が変化したビット列を記録情報として形成するグループ記録光ディスク構造を有している。さらに、図3に示すように、同様な材料でランド及びグループを設けそれらの上に同様にビット列を形成するランド/グループ記録光ディスク構造もある。よって、DVDファミリーで

は、記録再生システムの互換性が求められている。

【0003】一方、従来から、光ビームのトラッキング検出として、3ビーム法による3ビームピックアップが知られている。3ビーム法は、記録トラックの情報ビットを検出するために照射される主ビームに加えて、その両側に副ビームを照射することによりトラッキング検出などを行う方法である。例えば、3ビームのそれぞれの戻り光のスポット毎に光検出器を設け、各々リアルタイムで検出信号を検出し、その差動信号を取るようになれば、オフセットの影響を受けにくいトラッキング誤差の検出ができる差動プッシュプル法（以下、DPP法という）がある。3つの光ビームを得るには、光ビームを回折格子により回折させ、発生する主ビームの0次回折光と副ビームの±1次回折光を用いることが一般的である。さらに、3ビームピックアップでは、隣接トラックのクロストークを抑えるために、図4に示すように、目標のトラックに0次回折光の主ビームを、±1次回折光の副ビームを隣接トラック上に集光させることによって、隣接トラックの信号を同時に読み出し、中央の主ビームによる読み出し信号から差し引くことによってクロストークを相殺するクロストークキャンセル法（以下、CTC法という）を実現している。

#### 【0004】

【発明が解決しようとする課題】3ビームピックアップでグループ記録光ディスクを記録再生する場合、DPP法のトラッキングエラー信号を検出するには、副ビームをグループ間に集光する必要がある。一方、3ビームピックアップにおいてグループ記録光ディスクでCTC法を行うためには副ビームを隣接するグループ上に集光する必要がある。従って、3ビームピックアップでDPP法及びCTC法の動作を両立させる場合、グレーティングを機械的に回転させたり、液晶素子のグレーティングを用いて回折素子のピッチを変えて、副ビームの集光位置を変える必要がある。

【0005】しかしながら、これらの方法ではこの切り替えを瞬時に行うことが不可能で、例えば記録動作で副ビームをDPP法として用い、再生時にCTC法を行うことを瞬時に切り替えることができない。これは記録及び再生を瞬時に切り替える必要がある高転送レート的光ディスクシステムには不向きである。本発明は、上述した状況に鑑みながらされたものであり、光ディスク構造が異なる多種類の光ディスクを記録再生する場合にDPP法によりトラッキングエラー信号を得ることができ、かつ、どの光ディスクを再生する場合でもCTC法を用いることができる光ピックアップ装置を提供することを目的とする。

#### 【0006】

【課題を解決するための手段】本発明の光ピックアップ装置は、光学式記録媒体の記録面とのトラックに光ビームを集光してスポットを形成する照射光学系、及び、前

記スポットから反射されて戻った戻り光を光検出器へ導く光検出光学系、前記光検出器の出力に基づいて生成されたエラー信号によって駆動される光ピックアップ装置であって、前記照射光学系の前記光ビームの光路中に配置され、前記光ビームから0次回折光、±1次回折光及び±2次回折光を生成し、0次回折光のスポットが形成されたトラックの両側に隣接するトラックに±2次回折光のスポットをそれぞれ形成し、±1次回折光のスポットを0次回折光及び±2次回折光のスポットの中心にそれぞれ形成すべく配向されたグレーティング素子を備え、前記光検出器は、前記0次回折光、±1次回折光及び±2次回折光のスポットからの戻り光をそれぞれ受光する独立した0次回折光用、±1次回折光用及び±2次回折光用の受光素子を備えることを特徴とする。

【0007】本発明の光ピックアップ装置においては、前記0次回折光用の受光素子は、直交する2本の分割線を境界線として各々近接配置されかつ互いに独立した4個の受光部からなり、一方の分割線がトラック伸長方向に平行になるように配置されていることを特徴とする。本発明の光ピックアップ装置においては、前記±1次回折光用及び±2次回折光用の受光素子の各々は、トラック伸長方向と略平行に伸長する分割線を境界線として各々近接配置されかつ互いに独立した少なくとも2個の受光部から構成されていることを特徴とする。

【0008】本発明の光ピックアップ装置においては、前記0次回折光用の受光素子に接続されかつその出力信号に基づいて第1トラッキングエラー信号を生成する第1トラッキングエラー信号演算回路と、前記0次回折光用及び±1次回折光用の受光素子に接続されかつそれらの出力信号に基づいて第2トラッキングエラー信号を生成する第2トラッキングエラー信号演算回路と、前記0次回折光用及び±2次回折光用の受光素子に接続されかつそれらの出力信号に基づいて第3トラッキングエラー信号を生成する第3トラッキングエラー信号演算回路と、を備えたことを特徴とする。

【0009】本発明の光ピックアップ装置においては、前記光学式記録媒体が互いに異なる構造を有しかつ情報記録信号のトラックピッチが略同である複数の異なる光学式記録媒体の1つである場合における前記光学式記録媒体の構造を検出する種類検出手段と、前記種類検出手段からの信号に応じて前記第1、第2及び第3トラッキングエラー信号を切り替える選択手段とを有することを特徴とする。

【0010】本発明の光ピックアップ装置においては、前記光学式記録媒体が再生専用媒体である場合に、前記0次回折光用の受光素子の信号に基づいてトラッキングエラー信号を得ることを特徴とする。本発明の光ピックアップ装置においては、前記光学式記録媒体がグループ記録構造を有する場合に、前記±1次回折光用の受光素子の信号に基づいてトラッキングエラー信号を得ることを

を特徴とする。

【0011】本発明の光ピックアップ装置においては、前記光学式記録媒体がランド／グルーブ記録構造を有する場合に、前記±2次回折光用の受光素子の信号に基づいてトラックエラー信号を得ることを特徴とする。本発明の光ピックアップ装置においては、前記0次回折光用及び±2次回折光用の受光素子に接続されかつ、前記±2次回折光用の受光素子の出力信号に基づいて、前記0次回折光用の受光素子の出力信号に含まれる隣接トラックからの信号のクロストーク量を減少せしめるクロストークキャンセル演算回路を備えたことを特徴とする。

【0012】本発明の光ピックアップ装置においては、少なくとも前記0次回折光のスポットからの戻り光に非点収差を付与する光学素子を備えることを特徴とする。本発明の光ピックアップ装置においては、前記非点収差を付与する光学素子はシリンドリカルレンズであり、その中心軸が光ディスクのトラック伸長方向に対して45度の角度で伸長するように、戻り光の光路に配置されていることを特徴とする。

【0013】

【発明の実施形態】次に、本発明による光ピックアップ装置を含む記録再生装置の好適な実施形態について以下に説明する。

(光ピックアップ装置)図5は、本発明の一実施形態である光ピックアップ装置の構成を示す。

【0014】ビット列又はトラックがその上に螺旋又は同心円状に形成された記録層を有する光ディスク1は、光ピックアップ装置3の対物レンズ37から離開するように、図示しないスピンドルモータのターンテーブル上に設置されている。光ピックアップ装置3は、光源である半導体レーザ31と、グレーティング32と、偏光ビームスプリッタ33と、コリメータレンズ34と、ミラー35と、1/4波長板36と、対物レンズ37と、シリンドリカルレンズなどの透光性材料からなる非点収差発生光学素子38と、光検出器40とを備えている。光検出器40は、戻り光の0次回折光用の受光素子400、同±1次回折光用の受光素子401及び402並びに同±2次回折光用の受光素子403及び404を備えている。

【0015】図5に示すように、半導体レーザ31から射出された光ビームは、グレーティング32を経て偏光ビームスプリッタ33に入射する。偏光ビームスプリッタ33は偏光鏡を有しており、入射した光ビームは偏光ビームスプリッタ33を通過し、コリメータレンズ34を経て、ミラー35により光路を直角に変えられ、1/4波長板36を通過し、対物レンズ37から光ディスク1の記録面へ照射される。このように、照射光学系は、対物レンズ37は光ディスク1のビット列又はトラックへ光ビームを集光して記録面上に5つの光スポット(図

示せず)を形成する。

【0016】記録面上に照射される5つの回折光スポットは、光源と対物レンズの間に配置されたグレーティング32の回折によって得られる。グレーティング32は、回折の影響を受けない0次回折光を中心に±1次回折光、±2次回折光(図9参照)が発生するように、そのデューティ比及び回折効率が設定されている。グレーティング32すなわち格子パターンを設けた回折格子は、光ビームを通過させた場合、光ビームの本来の光軸上に現れる0次回折光と、照射面上で直線上に所定間隔ごと離れて現れる高次の回折光を生成する。この実施形態では、±2次回折光までの光ビームを用いる。グレーティング32により、主ビームとしての0次回折光と、直線上にて主ビームを中心として対称的に記される4本の副ビームの±1及び±2次回折光とが光ディスク1の記録面へ照射されることになる。グレーティング32は、例えばガラス板などの平板に凹凸を形成した回折格子で実現できるが、他には、所定透明電極パターンを備えた液晶パネルを用いても実現できる。

【0017】図5に示すように、光ディスク1の記録面上の5つの光スポットにて反射された戻り光は、光検出光学系により、光検出器40へ導かれる。すなわち、戻り光は対物レンズ37、1/4波長板36、ミラー35及びコリメータレンズ34を経て、再び偏光ビームスプリッタ33に入射する。戻り光は偏光ビームスプリッタ33により半導体レーザ31への方向とは異なる方向へ光路を変えられ、非点収差発生光学素子38を経て光検出器40へ導かれる。非点収差発生光学素子38を通過した戻り光は非点収差を付与され、0次回折光の戻り光は0次回折光用受光素子400へ、±1次回折光の戻り光は±1次回折光用受光素子401、402へ、±2次回折光の戻り光は±2次回折光用光検出器へそれぞれ入射する。光検出器40における各受光部は受光した光を光電変換してそれぞれ出力する。

【0018】図6に示すように、光検出器40の0次回折光用受光素子400は、直交する2本の分割線を境界線として各々近接配置されかつ互いに独立した4個の等しい面積の受光部(B1、B2、B3、B4)から構成され、一方の分割線がトラック伸長方向(接線方向)に平行になるように構成されている。また、±1次回折光用受光素子401、402はそれぞれ、トラック伸長方向に略平行に伸長する1本の分割線を境界線として各々近接配置されかつ互いに独立した2個の受光部(A1、A2)(C1、C2)から構成される。さらに、±2次回折光用受光素子403、404もそれぞれ、トラック伸長方向に略平行に伸長する1本の分割線を境界線として各々近接配置されかつ互いに独立した2個の受光部(D1、D2)(E1、E2)から構成される。光検出器40は、非点収差法により、光スポットが光ディスク1の記録面上で重なる場合、戻り光の0次回折光が

最小錯乱円となり、これが0次回折光用受光素子400の分割線の交点に位置するように、配置されている。なお、0次、±1次及び±2次回折光用の受光素子400〜404は図6に示すように、直線上に並列される必要はなく、光ディスクに照射される0次、±1及び±2次回折光による光スポットからの5つの戻り光に対応するように独立して配置されればよい。

【0019】図6に示すように、ピックアップ3の対物レンズ37はトラッキングアクチュエータ302に支持されている。トラッキングアクチュエータ302は、後述するトラッキングドライブ1から供給される駆動信号のレベル及び極性に応じて対物レンズ37を光ディスク1の半径方向に移動せめ、光ビームを所定トラック上にトレースさせるトラッキングサーボを実行する。

【0020】ピックアップ3には対物レンズ37に取り付けられたフォーカスアクチュエータ（図示せず）も内蔵され、フォーカスアクチュエータは供給される駆動信号のレベル及び極性に応じて対物レンズ37を光ディスク1の表面に垂直な方向（光軸方向）に移動せめ、光源から放射された光ビームを所定の記録層へ集光するフォーカスサーボを実行する。

【0021】かかるフォーカスサーボには非点収差法が用いられ、図5に示すように、非点収差発生光学素子のシリンドリカルレンズ38は、その中心軸（レンズ面をなす円柱曲面の回転対称軸）が光ディスクのトラック長方向に対して45度の角度で伸長するように、戻り光の光路に配置されている。この構成により、対物レンズ37により収束する戻り光に非点収差を与え、光ディスク1の記録面及び対物レンズ37間距離に応じて手前に線像、中間に最小散乱円及び奥に線像を形成する。よって、検出光学系は、光ビームの合焦時に0次回折光スポットから戻り光の最小散乱円を0次回折光用受光素子400に照射し、デフォーカス時に受光面の対角線方向に延びた線像及び円形内の0次光スポットを0次回折光用受光素子400に照射する。よって、0次回折光用受光素子400の対角位置にある一対の受光部（B1、B3）の和信号と他方の一対の受光部（B2、B4）の和信号と差をとることで非点収差法のフォーカスサーボ信号を得ることができる。

【0022】図7に示すように、光検出器40はサーボ信号演算部410に接続されている。サーボ信号演算部410は後述する種々の信号を生成し、これらを、接続された制御部509及びスイッチ回路510へ供給する。サーボ信号演算部410からスイッチ回路510へは第1、第2及び第3トラッキングエラー信号TE1、TE2、TE3が供給される。スイッチ回路510はトラッキングドライブ1513に接続され、制御部509からの信号により制御される。制御部509は、プロセッサ、ROM、RAMを含むマイクロコンピュータである。スイッチ回路510により選択・転送されたトラッ

キングエラー信号がトラッキングドライブ1513に供給され、トラッキングドライブ1513がスイッチ回路510の出力に応じた駆動信号を発生し、これをトラッキングアクチュエータ302に供給する。これにより、スイッチ回路510が1つの入力を選択しサーボ信号演算部410の出力信号をトラッキングドライブ1513へ中継するトラッキングサーボループの閉成時には、選択されたトラッキングエラー信号のレベルがゼロになるように、すなわち光スポットがトラックに追従するようにトラッキングアクチュエータ302が駆動される。

【0023】光検出器40はまた、公知のCTC法を実行するクロストークキャンセル演算部610に接続されている。クロストークキャンセル演算部610は制御部509により制御され、再生信号のRF信号（Radio Frequency）を出力する。再生信号はRFアンプ（図示せず）やイコライザ（図示せず）を経て読取信号処理系（図示せず）に伝送される。

【0024】（サーボ信号演算部）図8に示すように、光検出器40に接続されているサーボ信号演算部410は0次回折光用のトラッキングエラー信号演算回路411、±1次回折光用のトラッキングエラー信号演算回路412並びに±2次回折光用のトラッキングエラー信号演算回路413を備えている。これらトラッキングエラー信号演算回路は、光電変換により出力された光検出電気信号に基づいて所定の演算を行って複数のトラッキングエラー信号を生成する。

【0025】0次回折光用のトラッキングエラー信号演算回路411は、位相差法（以下、DPP法という）に基づいて構成されている。DPP法は1つのトラックにおける凹凸のビット列（記録信号）からの回折パターン（位相変化したトラッキングエラー信号）を検出する方法である。0次回折光用のトラッキングエラー信号演算回路411では、4分割された0次回折光用受光素子400の分割線の交点に対して対角位置にある一方の2つの受光部（B1、B3）からの出力の和信号と他方の2つの受光部（B2、B4）からの和信号の位相差と比較位相411aにて比較演算することにより、第1トラッキングエラー信号TE1を生成する。このように、0次回折光用の受光素子400に接続された0次回折光用のトラッキングエラー信号演算回路411はその出力信号からDPP法に基づいて第1トラッキングエラー信号TE1を生成する。

【0026】また、0次及び±1次回折光用の受光素子400、401、402に接続された±1次回折光用のトラッキングエラー信号演算回路412は、DPP法に基づいて構成されている。DPP法は1つのトラックとその周囲の隣接トラックにおけるビット列や記録マークなどによる光スポットの反射率の変化すなわち強度分布の変化からトラッキングエラー信号を検出する方法である。

【0027】DPP法では、2本の副ビームとそれら間の中央の主ビームは記録面上に集光され合焦したとき、主ビームのスポットがトラックの中心を通れば、反射光の強度分布は左右対称になり、0次回折光用受光素子400からの検出信号(B1+B4)と(B2+B3)との差は生じない。一方、主ビームのスポットがトラックの中心からずれた状態でビームを通れば、反射光のトラック両側の強度分布に差が生じ、0次回折光用受光素子400からの検出信号の差が生じるが、このプッシュプル法では、対物レンズ37の光ディスク半径方向シフトによりトラックエラー信号にオフセットが生じてしまうという問題があるので、両側の2本の副ビームにより生成されるスポットの間隔をトラックの間隔に等しく

$$TE2 = [(B1+B4) - (B2+B3)] - G \times [(A1-A2) + (C1-C2)] \dots (1)$$

ただし、上記式中、Gは補正係数を示す。

【0030】さらに、0次及び±2次回折光用の受光素子400、403、404に接続された±2次回折光用のトラックエラー信号演算回路413は、±1次回折光用のトラックエラー信号演算回路412と同様に、DPP法に基づいて構成されている。よって、0次

$$TE3 = [(B1+B4) - (B2+B3)] - G \times [(D1-D2) + (E1-E2)] \dots (2)$$

ただし、上記式中、Gは補正係数を示す。

【0032】図8に示すように、さらに、サーボ信号演算部410は0次回折光用の受光素子400に接続されたSUM信号演算回路414も有し、受光素子400の受光部(B1+B3+B2+B4)すべての光電変換信号の合計をフォーカスSUM信号として生成し、制御部509に供給する。また、サーボ信号演算部410は0次回折光用の受光素子400に接続されたフォーカスエラー信号演算回路415も有し、0次回折光用受光素子400の受光部の符号とその出力として示すと、非点収差法から得られるフォーカスエラー信号FEは、以下の式(3)によって得られる。

【0033】

【数3】

$$FE = (B1+B3) - (B2+B4) \dots (3)$$

さらにまた、サーボ信号演算部410は±1次回折光用の受光素子401、402に接続されたラジアルプッシュプル信号演算回路416も有し、±1次回折光用の受光素子からのラジアルプッシュプル信号を検出し、その差動信号からプッシュプル信号を生成する。

【0034】図7に示すように、サーボ信号演算部410は、図示しないイコライザなどにより波形等化された第1トラックエラー信号TE1をスイッチ回路510の1つの入力端子(B)に供給する。同様に、第2トラックエラー信号TE2をスイッチ回路510の1つの入力端子(B)に、第3トラックエラー信号TE3を入力端子(C)に供給する。

設定することにより、2本の副ビームにより生成されたスポットからの反射光の強度分布の差を±1次回折光用受光素子401、402の受光部からの検出信号より求めそれを補正して、対物レンズの半径方向シフトに対するオフセット信号を消去するのである。

【0028】すなわち、±1次回折光用のトラックエラー信号演算回路412では、0次回折光用の受光素子400並びに±1次回折光用受光素子401、402の受光部の符号をその出力として示すと、得られるトラックエラー信号TE2は、以下の式(1)によって示される。

【0029】

【数1】

$$TE2 = [(B1+B4) - (B2+B3)] - G \times [(A1-A2) + (C1-C2)] \dots (1)$$

回折光用の受光素子400並びに±2次回折光用受光素子403、404の受光部の符号をその出力として示すと、得られるトラックエラー信号TE3は、以下の式(2)によって示される。

【0031】

【数2】

$$TE3 = [(B1+B4) - (B2+B3)] - G \times [(D1-D2) + (E1-E2)] \dots (2)$$

【0035】スイッチ回路510には、制御部509からの制御信号が供給され、光ディスクの種類に対応した制御信号に応じて端子(A)～(C)のいずれかを選択的に出力するよう切り換え制御される。これにより、スイッチ回路510がいずれかのトラックエラー信号を選択し、トラックドライバ613へ中継して、トラックサーボループの閉成時には、光ビームが記録面のトラックに追従するようにトラックアクチュエータ302を駆動する。

【0036】光ディスクの種類の検出は、例えば光ディスクを取納するカートリッジに判別マークを設け、これを判別することや、例えば、光ディスクにフォーカスサーボほかけ光ディスクに設けられた記録情報に基づいて光ディスクの種類を判別することで行われる。光ディスクの種類の検出において、光ディスクなどに情報が記録されていない場合はフォーカスSUM信号による光ディスクの反射率の変化及びプッシュプル信号レベルなどで例えば以下のように判定する。

【0037】制御部509は、所定閾値レベルに基づいて光ディスクの反射率が大きかつプッシュプル信号レベルが小の場合はROM光ディスクと判別する。反射率小及びプッシュプル小の場合はグループ記録光ディスクと判別する。反射率小及びプッシュプル大の場合はランド/グループ記録光ディスクと判別する。次に、制御部509は、上記光ディスクの判別結果により、ROM光ディスクの場合は第1トラックエラー信号TE1を、グループ記録光ディスクの場合は第2トラックエラー

一信号TE2を、ランド／グループ記録光ディスクの場合は第3トラッキングエラー信号TE3を、スイッチ回路510で選択する。なお、再生時の場合は光ディスクの種類に関わらずCTC法の演算を行う。

【0038】(光ビックアップ装置の動作例) 光ディスクに照射される光、±1及び±2次回折光による光スポットからの戻り光をそれぞれ個別に受光する光検出器40の0次、±1次及び±2次回折光用の受光素子400～404との関係について説明する。まず、ROM光ディスクを再生する場合について説明する。図9に本発明でのROM光ディスク面上でのスポットの配置を示す。0次回折光は信号が記録されたトラックに集光され、±2次回折光は隣接するトラック上に集光するように配置される。この場合±1次回折光はトラック間に集光して

いる。

【0039】ROM光ディスクを再生する場合、0次回折光用の受光素子400、同±1次回折光用の受光素子401及び402並びに同±2次回折光用の受光素子403及び404は図10に示すように光ディスク面上の5ビームの戻り光すべてを受光する。第1トラッキングエラー信号TE1は、0次回折光による主ビームを用い、0次回折光用の受光素子400に接続された0次回折光用のトラッキングエラー信号演算回路411によりDPP法で得る。

【0040】0次回折光が照射されるトラックの両側の隣接トラックに集光された±2次回折光は、±2次回折光用受光素子403、404で受光されCTC法に用いられる。よって、ROM光ディスクを再生する場合は0次及び±2次回折光用の受光素子400、403、404からの信号を用いCTC法を行うことができる。次に、グループ記録光ディスクを記録再生する場合について説明する。図11に本発明でのグループ記録光ディスク面上でのスポットの配置を示す。0次回折光は信号が記録されたトラックに集光され、±2次回折光はROM光ディスクの場合と同様に隣接するトラック上に集光するように配置される。一方、±1次回折光はグループに集光するように配置される。

【0041】グループ記録光ディスクを再生する場合も図12に示すように0次回折光用の受光素子400、同±1次回折光用の受光素子401及び402並びに同±2次回折光用の受光素子403及び404は光ディスク面上の5ビームの戻り光すべてを受光する。この±1次回折光を受光する±1次回折光用受光素子401、402でプッシュプル信号を得ることができるので、0次回折光用受光素子400で得られる主ビームのプッシュプル信号と差動をとると対物レンズシフトによるオフセットの影響のないDPP法のトラッキングエラー信号を得ることができる。再生時には、±2次回折光用受光素子403、404を用いてCTC法を行う。また、再生時にも0次及び±1次回折光用の受光素子400、4

01、402を用いてDPP法トラッキングエラー信号を得てもよい。

【0042】次に、ランド／グループ記録光ディスクを記録再生する場合について説明する。図13に本発明でのランド／グループ記録光ディスク面上でのスポットの配置を示す。0次回折光は信号が記録されたトラックに集光され、±2次回折光はROM光ディスク、グループ記録光ディスクの場合と同様隣接するトラック上に集光するように配置される。

【0043】ランド／グループ記録光ディスクを再生する場合も図14に示すように0次回折光用の受光素子400、同±1次回折光用の受光素子401及び402並びに同±2次回折光用の受光素子403及び404は光ディスク面上の5ビームの戻り光すべてを受光する。±1次回折光用受光素子401、402の他に、±2次回折光を受光する±2次回折光用の受光素子403、404でもプッシュプル信号を得ることができるので、0次回折光用の受光素子400で得られる主ビームのプッシュプル信号と差動をとることによって対物レンズシフトによるオフセットの影響のないDPP法トラッキングエラー信号を得ることができる。光ディスク構造の違いがあるものでグループ記録光ディスクの場合とDPP法トラッキングエラー信号を得るための光検出器が異なる。再生時には、0次及び±2次回折光用の受光素子400、403、404の信号を用いてCTC法を行うのは、ROM及びグループ記録光ディスクの場合と同じである。

【0044】いずれの光ディスク構造においても再生時にCTC法で用いるビームは±2次回折光であり、CTC法に用いる副ビーム光検出器は光ディスク構造によらず±2次回折光用の受光素子403、404なので製作が困難な光検出器を多く設置する必要がない。以上のように、ROM光ディスク、グループ記録光ディスク及びランド／グループ記録光ディスクは構造が異なるものの、隣接する情報が記録されたトラックピッチは、略同一である。すなわちCTC法に用いる副ビームの配置は光ディスクの構造によらず略同一である。このことは世代の光ディスクにも共通して成り立つとすれば、上記実施形態は有効である。

#### 【0045】

【発明の効果】本発明において光ディスク構造が異なる3種類の光ディスクを記録再生する場合において、どの光ディスクを記録する場合でもDPP法トラッキングエラー信号を得ることができ、どの光ディスクを再生する場合でもCTC法を用いることができるためプレアリティに優れた装置を提供することができる。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】 ROM光ディスク構造を示す拡大略略斜視図。

【図2】 グループ記録光ディスク構造を示す拡大略略斜視図。

【図3】 ランド／グループ記録光ディスク構造を示す拡大概略斜視図。

【図4】 光ディスクを示す拡大概略平面図。

【図5】 本発明による光ピックアップ装置の一実施形態の構成を示す概略斜視図。

【図6】 本発明による光ピックアップ装置の光検出器の構成を示す概略平面図。

【図7】 本発明による光ピックアップ装置の概略ブロック図。

【図8】 本発明による光ピックアップ装置のサーボ信号演算部の概略ブロック図。

【図9】 ROM光ディスクの平面図。

【図10】 本発明による光ピックアップ装置の光検出器の平面図。

【図11】 グループ記録光ディスクの平面図。

【図12】 本発明による光ピックアップ装置の光検出器の平面図。

【図13】 ランド／グループ記録光ディスクの平面図。

【図14】 本発明による光ピックアップ装置の光検出器の平面図。

【符号の説明】

- 1 光ディスク
- 31 半導体レーザ
- 32 グレーティング

33 偏光ビームスプリッタ

34 コリメータレンズ

35 ミラー

36 1/4波長板

38 非点収差発生光学素子

40 光検出器

302 トラッキングアクチュエータ

400 0次回折光用受光素子

401、402 ±1次回折光用受光素子

403、404 ±2次回折光用受光素子

410 サーボ信号演算部

411 0次回折光用のトラッキングエラー信号演算回路

411a 比較位相器

412 ±1次回折光用のトラッキングエラー信号演算回路

413 ±2次回折光用のトラッキングエラー信号演算回路

414 SUM信号演算回路

415 フォーカスエラー信号演算回路

416 ラジアルプッシュプル信号演算回路

509 制御部

510 スイッチ回路

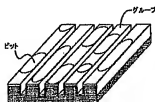
513 トラッキングドライバ

610 クロストークキャンセル演算部

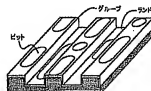
【図1】



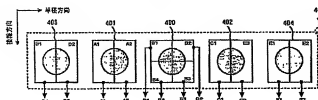
【図2】



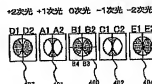
【図3】



【図6】

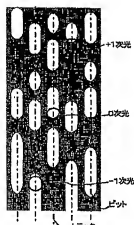


【図10】

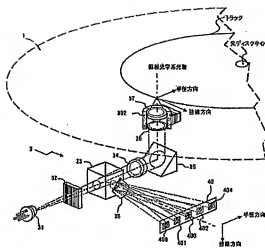




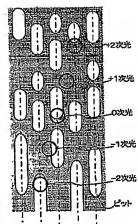
【図4】



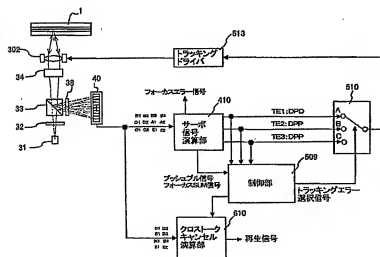
【図5】



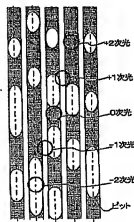
【図9】



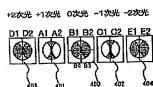
【図7】



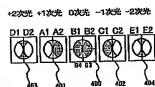
【図11】



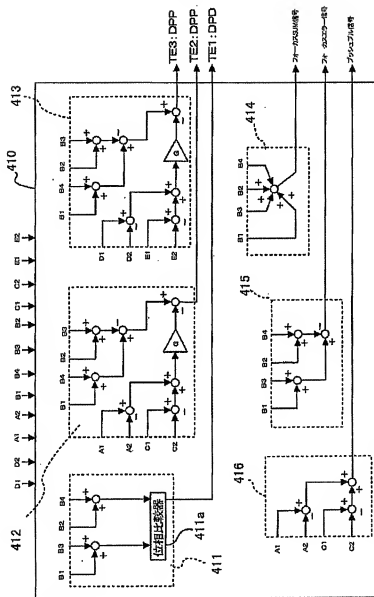
【図12】



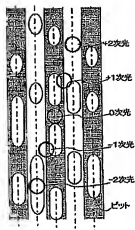
【図14】



【図8】



【図13】




---

フロントページの続き

Fターム(参考) 5D118 AA21 AA26 CA13 CA24 CB06  
 CD03 CD11 CF03 CF06 CG05  
 CG24 DA03  
 5D119 AA14 AA41 BB01 BB04 EA02  
 EC05 JA08 JA22 KA04 KA08  
 KA19